

要求運動の前進 1900人の組合を実現へ たたかって学び仲間を増やす 春の活動者会議 3月1日



3月1日、大塚の東京労働会館ラパスホールで、春の活動者会議を開きました。参加者は50人でした

れました。

「基調報告」は白滝書記長が行いました。

本日の活動者会議では「春の拡大月間」の方針を確立し、労働相談の今日的な実践課題を学び、支部活動と仲間

づくりの取り組みを交流し、要求運動の前進と闘って仲間を増やす活動の強化をはかります。

日本の労働運動は組織化が大きく立ち遅れています。組織率は16%に後退、中小企業や非正規雇用の分野ではさらに低い水準です。「誰でも、一人でも加入できる」「地域で活動し、身近で寄り添い助け合う」コミュニティユニオン東京は、未組織労働者の組織化の旗を高く掲げ、今年前半に1900人を実現し、そして2000人への



冒頭、佐藤委員長が挨拶を行いました。

この間の朝日生命事件について大きな反響を呼びました。障害者雇用雇止めの当事者が、CU東京に相談に来られ、当事者がたたかい

の先頭にたちました。このことは、全国的に障害者雇用問題を見直し、あるいは当事者が立ち上がっていくことが解決するというそういう事態が生まれたのです。労働者の要求運動が、組織を大きくしていくことに確信が持てたと話さ



跳躍台をつくります。2029年の20周年へ向け
ては、さらに存在と役割を拡充し、認知度を
高めて3000人に接近していきます。

本部四役による支部への激励訪問を初の試
みで取り組み、支部活動の前進面や課題につ
いて意見交換できました。年末に支部が様々
な形態ながら15か所以上で宣伝行動に取り
組んだことは、日常の活動を発展させた貴重
な経験を積みました。

このところの労働相談の傾向では、パワハ
ラに関する案件とそれに伴う解雇やメンタル
疾患と離職が依然として多く、年度末に近づ
いての雇止め、賃金未払いも増加しています。
寄せられている相談は中小企業の従事者だ
けでなく、大手企業とその関連企業なども目
立ち、業種は広範囲にわたり、派遣・非正規
などの不安定雇用労働者だけでなく正規社員
にも及んでいます。年齢も20代から80代
まで幅広く、インターネットで多方面を検索
してやっと辿り着くことも多く、CU東京が労
働相談のアクセス・受け皿での重要な役割を
担っています。

障害者雇用の雇止めでは、朝日生命事件
(三多摩地本)において労働審判での画期的な
勝利を勝ち取っています。ほかにも不動産投
資会社での雇止め事件(江戸川)では、交渉に
よって解決を勝ち取っています。今度の経験
は、法や行政指導の改善を求める運動に発展
する契機ともなっています。

首都圏の地域労組が11月16日、「そこ
に組合があったから 守られた雇用と権利」
をテーマに学習交流会を開催しました。各組
合から具体的な相談・争議の経験を交流しな
がら、相談から組織づくりへの運動発展をめ
ぐって課題を探る討論が活発にされました。
都内の労働基準監督署への連続訪問懇談に取
り組んでいます。

全ての支部が100人を超すための土台をつ
くり、さらに安定した200~300人以上の支部
確立をめざして自主活動の強化をする月間で
す。仲間に寄り添い、困難を切り開く組織的
財政的基盤をつくります。参加型で、青年と

女性の加入、活躍を意識的に促します。1900
人規模は、東京地評における中規模クラスの
組織数になります。地域において労働運動と
市民運動の接点として、その存在を高め、共
同の確かな一翼を担います。

講演は、旬報法律
事務所の今村幸次郎
弁護士から「労働相
談一事例と解決に向
けた実践的対応につ
いて」お話しいた
されました。



パワハラをめぐる法律、制度等の動きにつ
いて歴史的な経過をお話しいただきました。
事業主は、労働者が、パワハラ問題への関心
と理解を深めるとともに、他の労働者に対す
る言動に必要な注意を払うよう、必要な研
修の実施等に努めなければならないこと。
労働者は、パワハラ問題に関する関心と理解
を深め、他の労働者に対する言動に必要な注
意を払うとともに、事業主が講じるパワハラ
防止の措置に協力するよう努めなければなら
ない、ことなどを学びました。

残業代未払いや固定残業代、配転などたく
さんの事例をあげて説明をしていただき、理
解が深まる講演でした。

その後、経験交流支部報告がありました。



争議対策委員会の
鈴木さんからは、こ
の間の労働委員会救
済申し立てについて
や数々の解決事例な
どが報告されました。



江戸川支部の新木さ
んからは、この間の労
働相談の報告です。

障害者枠で入社した
のに、雇止めを受けた

事例や障害者のグループホームに勤める労働者の不利益変更事案など報告されました。



三多摩地本の福田さんからは、大企業の障害者雇止め（朝日生命事件）のたたかいの報告です。事件の経過とこの事件をたたかった意義が、話されました。当事者があきらめずにたたかいた先頭に立ったこと、多くの仲間を支えられたことなど報告されました。

あだち支部の高島さんからは、この間の労働相談の報告がありました。たたかいの上解決した事例を話されました。



《活動報告》

バレンタイン宣伝

渋谷支部



2月22日(土)2時から、原宿表参道で、渋谷区労連、CU東京渋谷支部恒例のバレンタイン宣伝を実施しました。CU渋谷から5名、新宿区労連から3名、合計8人が参加しました。

「物価高、給料も上がらない現状、職場では残業未払いや不当な解雇、ハラスメントなど、困っていることはないか」「会社に組合は無く

「CU東京 15年」

第6回 山田三平 (台東支部)

まだ模索中というのが率直な思いです。

15年前「CU東京を作る」という話を聞き、文京でもぜひと手を挙げました。労働組合運動が長期にわたって停滞している中で、どうすれば再び力を持てるのかと考えていたからです。

東京土建と言う労働組合は、「労使交渉」で物事を解決していくというタイプの労働組合とは違っていました。ところが今や東京の労働運動の欠かせない柱になっています。各地に立派な組合事務所を持っているというところだけ見ても明らかです。

新しい労働運動は、それまでの運動論からは違ったものになるだろうと考えていました。

「東京土建」と言う違ったタイプの見本があるじゃないかと思っていたところ、CU東京は土建が力を入れていると聞いて、「それだ」と思ったのです。

なんとも乱暴な発想かもしれませんが、スタートした以上走りながら考えていくしかありません。やはりCU東京は土建組合とは違うのです。自分の頭と実践で作り出すしかないのでしょうか。

その意味で元副委員長の故平山和雄さんの議論は半分以上理解できませんでしたが、ヒントは山のようにあると感じていました。ただ感じただけでいまだにつかめません。

*昨年、山田さんは文京支部から、新たな支部台東支部の結成に尽力されました。

こみゅーとニュースなど組合員の皆さんに様々な情報をお知らせします。公式アカウントのお友達登録を、お願いいたします。



ても、1人でも入れる労働組合があります 是非、相談を！」と組合加入を訴えました。CU東京のチラシ(加入用紙)を入れたポケットティッシュに一口大の包装チョコを付けて、通行人に声かけ、手渡しました。

時々、冷たい強風に凍える天候でしたが、用意した800個のチョコ付チラシは、笑顔で受け取る方も多く、開始から45分後には終了しました。(渋谷支部 丹野典子)

駅前での訴えに大きな反響

CUの定期宣伝を

教組・医労連などと共同で実施

中野支部



CU中野支部は毎月中野駅前以最賃引き上げとCU加入や労働相談などを訴えて宣伝を続けています。この定期宣伝を、1月は都教職員組合中野支部、2月は民医労健友会支部と共同で行いました。

教組は、教職員不足で担任がいない学級の出現や教員の給与制度と残業させられ放題の現状

を話し、少人数学級の実現と教職員定数増や残業代支給の制度などを訴えました。するとその訴えに共感の拍手がありました。駅前広場で待ち合わせしていた高校生の一団です。自分たちの小中学校を思い、先生方にもっとゆとりが必要だと共感したということでした。

病院の現場からの訴えも切実です。「医療崩壊をくい止める」「だれもが、安全・安心の医療・介護・福祉の実現を」「高すぎる医療費の負担を減らして」などのステッカーも準備しました。政府・財界の医療政策は地域に根付いて頼られている中小の病院を大病院に統合しようというものです。看護師や病院職員の賃上げの実現や人手不足解決を訴えました。

CU中野支部は、労働相談や団体交渉・解決の実績、CU加入を訴え、その場で「自宅待機」の相談をする人もいて、ていねいに対応しました。

(中野支部 菊地恒美)

近所の古本屋が閉店した。老夫婦の個人営業だが安価な美術書、100円文庫も揃っていたのに、楽しみが減った。書店の無い街が増えているという。図書館も統廃合の波に遭っている■電子書籍は便利だが、あれこれ見比べ、あちこち興味関心を巡らせての、暇もつぶせる陳列は無くてはならないと思うのは、時代遅れか。ネット検索では検索数の多寡で並べられてしまう。雑多なものが手に取れなくなるのは文化の危機ではないか■古文書を写真にして保存、膨大な書籍をスキャンする業務を有名な図書館が発注している。その受託企業で働く派遣社員から相談があった。結構熟練を要するというが時給は最賃プラス70円、何十人もの派遣労働者が入れ代わり立ち代わりの作業だという。文化を遺すには安すぎやしないか■東日本大震災から14年。泥の中の写真を洗うボランティアが喜ばれた。文字・絵・画像。姿かたちは、その人の生きた証しであり歴史そのものだから。

女性会議主催

4月13日(日)

東京都多摩動物公園で交流会

入園料は組合で出します

お弁当は各自持参してください

参加希望の方は支部を通して
ご連絡ください